

一年の中で、最も怪談が似合う夏がやってきました。今回「べつこ」が特集するのは、まさにそんな夏にピッタリの妖怪やお化けたちです。お化けや妖怪は、何れも子どもたちだけの楽しみではありません。「妖怪学」なる学問も実際に存在し、現在でも静かなブームを呼んでいます。

図書館の分類上にも「民俗学」としての妖怪(388)と、「心霊研究」としての妖怪(147.6)が存在しており、絵巻や図版でもその姿を見る事が出来ます。

★妖怪が隠れている棚番のご案内

- 一般書 ↓ 35番 20番
- 児童書 ↓ 10番 8番
- 郷土資料 ↓ 2番 1番

妖怪、お化け 大特集

妖怪はいつごろ誕生したのか？

妖怪という言葉が一般的に使われ出したのは、明治以降のことです。それ以前には、化け物という言い方が普通であったようです。化け物に代わって、妖怪という言葉が定着したのは、迷信打破の立場から妖怪を研究した明治期の啓蒙的哲学者・井上円了によるところが大きいとされています。また、妖怪について研究を行った人物として、『遠野物語』で知られる柳田国男の名前も挙げられます。彼は、全国各地に残る伝説や古文獻、特に地誌類の記述を素材にして、妖怪は信仰が失われ零落した神々の姿であるという仮説を構築しました。

明治以前の文獻に残された妖怪は、時代によって活躍するタイプが変遷しています。奈良から平安に至る時代には鬼の話が多く、妖怪談が多く集められている『今昔物語集』巻二十七には、鬼にまつわる話がたくさんあります。鎌倉、室町から戦国時代にかけては、天狗の話が増えています。江戸時代に多様な妖怪が大成され記録されたのは、「百物語」と呼ばれる遊びとしての怪談会の流行があったといわれています。

こうしてみると、歴史を越えさまざまな文獻に妖怪が登場していることがわかります。この夏は、妖怪を求めて古典文学などを読んでみてはいかがでしょう。

妖怪は日本だけのものなのか？

「人間がいるところには必ず妖怪がいる」と、かの水木しげる氏も『水木しげるの世界妖怪事典 続』のなかで語っている様に、妖怪は世界共通のものであるようです。

参考文献

- 『日本伝奇伝説大事典』 乾克己(ほか) / 編 角川書店 一九八六年(R/388.1/17/1)
- 『水木しげるの世界妖怪事典 続』 水木しげる / 著 東京堂出版 二〇〇〇年(388/ミズ/2)

シタガラゴンボコ (二戸)

「下河原のろくでなし」という意。二戸市福岡岩屋橋付近でいう狸の妖怪。

『岩手の伝説』 金野静一・須知徳平/共著 角川書店 1980年(K/388/キ2/2)



亡者船 (九戸)

盆になると出沒すると言われ、漁船は亡者船を避ける為に日の暮れない内に帰る。鬼の豆を撒くと消えるという。

『総合日本民俗語彙 第4巻』 民俗学研究所/編 平凡社 1956年(380.3/リ1/4)

座敷わらし (花巻)

岩手県を中心とした東北地方でいわれる妖怪。3〜12才位の子どもで、オカっぱ頭とされる事が多い。

『郷土趣味 第5分冊』 岩崎美術社 1984年(380.5/キ1/5)
『残しておきたい日本のこころ』 重松清/編 幻戯書房 2007年(914.68/ノ)
『ざしき童子のはなし』 児玉房子/画 宮沢賢治/著 草の根出版会 2008年(ケン/E/ミヤ)

よろず姫と大蛇 (岩手町)

大安良山にある沼の大蛇はよろず姫の徳により退治され、角・背骨・頭・腹・尾の5つが各地に散らばり、土地の神として祭られた。

『旅と伝説 第6巻』 岩崎美術社 1978年(380.5/キ1/6)
『岩手郡の伝説』 太田忠雄/編著 姫神物語研究所 1979年(K/388/キ5/5)

うなぎ男 (雫石)

美しい娘は、人の姿をした古鰻の子を宿すが、娘の親が煎じた薬草によって、子は水になった。

『聴耳草紙』 佐々木喜善/著 筑摩書房 1964年(K/388/キ1/6)

八郎太郎 (西和賀)

八郎沢(沢内村)に生まれた巨人である八郎太郎は大蛇となり湖に沈められるが、妻の辰子も大蛇となり冬には秋田県の田沢湖で睦まじく暮らすという。

『八郎太郎』 菊池敬一/文 丸木俊/絵 小峰書店 1979年(エホ/テイ999)

カニ坊主 (花泉)

甲橋という橋にまつわる伝説に登場する大蟹。寛法寺の住職に鉄扇で打たれて退治される。

『岩手の伝説』 金野静一・須知徳平/共著 角川書店 1980年(K/388/キ2/2)

岩手の妖怪分布

※妖怪の出現する地域は諸説あると言われており、こちらで紹介した地域に限定するものとは限りません。

河童 (遠野)

『遠野物語』(柳田国男/著)にも登場する河童は、全国に出没。共通点は、相撲好き・きゅうり好き・人間の肝や尻子玉が好物な所。

『遠野の河童たち』 原美穂子/著 風琳堂 1992年(K/388/ハ3/1)
『いわて河童物語』 金野静一/著 熊谷印刷出版部 1982年(K/388/キ2/4)
【ビデオ】『遠野むかしばなし』 アクト・ディヴァイス 1992年(VK/388.1/材)

雷獣 (北上)

明治時代、実際に新聞に取り上げられたこの妖怪は、猫に似て面長く毛は灰色にして耳は無し。

【マイクロフィルム】『岩手新聞』 明治17年6月9日

参考文献

- 『日本妖怪大事典』 村上健司/編著 角川書店 2005年(R/388.1/ミ)
- 『地方発明治妖怪ニュース』 湯本豪一/編 柏書房 2001年(147.6/林)
- 『日本の妖怪』 平凡社 1987年(388.1/ニ)

本で見る妖怪

『動物妖怪譚』 上・下巻 日野巖/著 中央公論新社 2006年(388.1/ヒ/1・2)
古今東西、伝説の動物を分類し、分析・解説。大正15年刊の名著が復刊!

「せなけいこ・おばけえほん」シリーズ
せなけいこ/作 童心社(エホ/セ)
とうふこぞう、てんぐ…こんなにかわいい妖怪なら、大歓迎!?こどもからおとなまで楽しめます。

『水木しげるの妖怪大百科』
水木しげる/著 小学館 2004年(J/388/ミズ)
妖怪について知りたいなら、まずはこちらを!こども向け、妖怪学の入門書。

『妖鬼化』 1〜8巻 水木しげる/著 ソフトガレージ 1998年(726.5/ミズ/1〜8)
著者が50年にわたり描き続けた妖怪画を収録。全8巻、迫力の原画集です。

『お化けの海水浴』
川端誠/作 BL出版 2002年(エホ/カ)
いろんなお化けが海に勢ぞろい!?落語絵本でおなじみ、川端さんの夏らしい一冊です。

『遠野のザシキワラシとオシラサマ』 佐々木喜善/著 中央公論新社 2007年(K/388.122/ササ)
『遠野物語』(柳田国男/著)の語り手でもある著者が収集した、ザシキワラシ・オシラサマに関する話を多数収録。

『百鬼夜行絵巻』
湯本豪一/著 小学館 2005年(721.2/ユモ)
京都・大徳寺真珠庵に伝わる妖怪絵巻。絵巻に描かれた妖怪の姿とは!?百鬼夜行の世界をカラーで楽しめる一冊。

『妖怪・化け物の怪談』
川村たかし/監修 教育画劇 2007年(J/913/ヨ)

日本各地の妖怪・化け物がでてくる古典怪談・落語を紹介! 古典怪談傑作選全6巻の第2巻。

* 河童 * 【ビデオ】『まんが日本昔ばなし』 毎日放送
8巻収録「河童の雨ごい」1995年(V/778/マン/8)
10巻収録「河童のくれた妙薬」1995年(V/778/マン/10)

* ろくろ首 * 【CD】『落語・講談 怪談ばなし4』
二代目 三遊亭円歌/口演 ANY 1995年(C/G01/ラク/4)

* 妖怪の声を聞く *

【CD】『効果音大全集4 ジャングル/妖怪/恐竜』
King Record 1999年(C/G06/コウ/30-4)

* 怪談 * 【CD】『朗読 怪談傑作集 その4』
内田百閒/作 永井智雄/朗読 東芝EMI 2003年(C/G08/カイ/6-4)

音と映像の妖怪

* 座敷童子 *

【CD】『昔話ふるさとへの旅4 岩手』
鈴木サツ/語り King Record 2000年(CK/J02/ムカ)